



同窓会報 興學

発行所
山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地
小国高等学校内
電話(62)2054
小国高等学校同窓会
事務局

私は、もっと小国高校を
生徒一人一人の意見を元に
よりよくし、自分の夢を叶
えられるような学校にした
いと思いこのスローガンを
作りました。

同窓会の皆さんありがと
うございました。

二年 仁科 茜

六月十九日、小国高校体
育祭が行なわれ、白熱した
綱引競技が行なわれた。

“アツ”一瞬の出来事で
した。ロープが切れてしまっ
たのです。

同窓会として、写真上の
看板と、綱引き用ロープを
寄贈しました。また、事務
局用ノートパソコン一台を
購入させていただきました。



特集 中高一貫教育小国高に期待する

仕上げ役は小国高校

小国町教育委員会
教育次長 安部 靖夫
(昭和三十六年度卒)



ある先生は、「スポーツでいえば、全国の強化指定校になった」という。

小国高校の卒業生は、五六〇〇人を数える。小国町人口の半数以上の方が同校を卒業し、それぞれの分野で活躍している。その小国高校が本年度から三年間、国の「小・中・高一貫教育研究校」として指定をうけた。実質的に町内全ての小中高が連携するということで、全国に例がなく注目を集めている。

一貫教育は何かということであるが、教育は「つながりのある指導体制」が重要であることは言うまでもない。小学校から高校まで一貫した目標をもって教育が進められることは、意義あることであり理想である。その目標は「自分を表現できる生徒の育成」である。一つに国際化・情報化が進む中で英会話とパソコン操作の授業が行われている。外国講師を招き充実・強化に努める一方、将来はインターネットを利用して外国との交流も視野に入れ、修学旅行ではその成果を試すなど一連の授業内容が組まれている。

また、生徒が将来像をはっきりもち、その目標を達成するための進路指導や職場体験等を行い、生徒のやる気をささえている。



こうしたことから、小・中・高の間で今までにない生徒や先生方の授業交流が活発に行われている。一貫教育の成果をあげるには各学校の努力はもちろんであるが、父兄や町民の理解を得ながら進めることが重要である。

教室の中だけでなく、主

体的な体験学習の展開や地域行事への参加、ボランティア活動も大切と思う。いずれにしても一貫教育の「仕上げ役」は小国高校である。その実績が小国高校の将来に結びつくことを考えるとき、この事業に対して大きな期待をもつものである。

日本そして世界のリーダー育成

郵便局長 木村 三郎
(昭和四十三年度卒)



教育改革の一環として、中高一貫教育が平成十三年度から、全国の先進として小国高校に導入されました。導入に際し、中高一貫の基本構想である教育方針では、「ゆとりある教育」「国際化・情報化に対する教育」「地域に関する教育」「個性を伸ばす教育」の四つの柱に基づき学校運営に取り組む事になっており、日々邁進してきたことと思います。今年四月からは、「学校週五日制」などが実施され、ますます生涯学習が充実さ

である。その実績が小国高校の将来に結びつくことを考えるとき、この事業に対して大きな期待をもつものである。

れるのではないかと思いますし、学力低下の不安が叫ばれている中、先ほどのPISAの発表では「優秀な日本の学力」との結果が出ていますし、まだまだ日本学生は底力を持っており、将来は明るいと思います。最後に、自然環境に恵まれた小国高校に期待したいことは、日本、そして世界のリーダーになりえる生徒さん達が、中学一年生から六年間、連携を図りながら、計画的に又生徒一人ひとりの個性を生かしつつ、世界の中の日本人として、未来社会の創造と発展に尽くす豊かな人間性と進取の気性に富む若人に育つことです。

当社を通じて世界中で活躍



東芝セラミックス㈱所長 仁科 洋一

着することを期待します。教育に
関係する方だけの努力で人は育ち
ません。地域で育むことが必要な
のです。

先日、小国高等学校の学校評議員として小中高一貫教育の公開授業に参加しましたが、そのときの感想と今後に期待する気持ちの一端を述べてみたいと思います。

まず、今回の試みを地域一体となった活動にではなくてはならない
と思いました。地域の理解とベクトルが合致することで、その成果も大きくなると思うからです。

その意味で、生徒活動である「あいさつ運動」が町の運動とし定

「中高官民一貫教育」の構築



木下商店専務 木下 三千男

次年度より実施されます中高一貫教育について昨年までは中学校の父兄として準備段階に係わって参りました。六年間を通じての継続的な教育ができ、生徒達がのびのびと勉学にスポーツにと活躍できることはたいへん良いことだと思

います。ボランティアにも積極的に参加して地域の方々とふれあい、様々な経験を積ませ、引き出

しをたくさん持った生徒を社会に送り出していただきたいと期待します。また、町外への人口流出が著しい理由に就労の場が少ない事があげられます。町の将来を担っていく生徒達が安心して社会人となりうる環境作りは私たち地域の大人の義務だと考えます。校長先生と教頭先生が地元の方と言うことで官民との太いパイプを作り、「中高官民一貫教育」を構築していただきたいと思

います。末筆になりますが小国高校が益々レベルアップし、町の基幹校として活躍することを祈り致します。

「井の中の蛙」にならない教育を



井上製作所社長 木内 茂雄

とそれに対する意見を主張する能力が必要である。そして他の意見と協調する能力、これ即ち「和」ではないだろうか。

一 企業を営む者の一人として常日頃考えることの中に、人材を欠かすことが出来ない。どのような人材かと言え、企業とは仕事を

する所であり、これを遂行するには人間性の有る人材を必要とするのである。人間性と言ってもあまりに漠然としているので少し噛み砕いてみると、

まず一番目に「和」である世の中意見は色々出ることが有る、それら意見を理解出来る知識

心の豊かさ、思いやりのもてる人間育成



金十商店社長 佐藤 重光

人歩きし強調されている生活環境の現実、寂しさを覚え憂慮の気持ちを感じない。

我々も日常的恩恵に浴している便利社会は、実は人間の心を奪っているのかもしれない。

おはよう、さよなら、今日は、今晩は、ありがとう、こんな当たり前の会話が失われつつある社会現象の中にあると感じるのは私一人であろうか。

小中学生の成績が相対評価から絶対評価へ、三学期制から二学期制へ、公立中学校と県立高校の一

値も無い、そのためにも仕事を理解する知識を最大限生かし、速やかに仕事を完了しなければならい。と、三項目あげてみたが実用面ではなかなかむずかしいものである。

学校に期待する事は、世の中になれば誰もが何かの職業につくわけだが、人間性を発揮するには基礎知識を十分に習得しておかなければ、仕事を処理する応用動作がとれない。その事を生徒が如何に認識し、勉強が大切かを教育してもらいたい。それから中高一貫となれば、小国町から外に出る機会が少なくなるので、「井の中の蛙」にならないよう見聞を広くする教育に留意していただきたい。

貫教育等々、教育現場も迷走しているようである。

例えばかに思考改革に取り組んでも、原点は基礎学力を習得させることは当然であるが、その上で感情のコントロールが出来、心の豊かさ、思いやりのもてる人間育成が、本来の教育では無からうかと思うこの頃である。

地域の生活者に支えられている一人の経営者として、小国高校の一貫教育から前述したような人材を輩出される事を期待すると共に、厳しい雇用環境ではあるが採用という手段で地域に貢献できればと考えている。

新生小国高校に期待する

小国中二年保護者 間 宮 尚 江



新春も過ぎ日増しに外でのコトが煩わしく感じる。そんな時「連携型入試」の志願者数が昨年度の入学人数を上回った報道を読んだ。いよいよ今からが本当の始まりなのだ。私達保護者は今からの動きをしっかりと見極めなければならない。小中高一貫教育でどの程度の効率良い学習が期待できるのか、地域密着型の教育でどれ

ほどの若者が地元で就職できるのか、教育改革の陰で痛みを伴うのが生徒であっては、決してならないからだ。また私達保護者も対岸の火事とばかりに無関心でもない。昨年の公開授業で私は初めて小国高校に入ってみたが小中保護者も教育現場を積極的に見るべきである。そんな機会を増やす事で小中高の壁を徐々に取り除けるかもしれない。また、問題意識を持つ事で新たな進歩があるかもしれない。他地域の生徒にも何かを発信できる新生小国高校であってほしい。

外国人講師による生きた英会話授業

小国中一年保護者 矢 部 多 圭 義



子供を持つ親として気になるのは、やはり将来どの様な人間となって社会に出ていくのだろうかという事です。小国の恵まれた環境の中において中高一貫教育という新しい試みに様々な意味でとても期待しているところです。中でも国際情報教育という授業には、イン

ターネット等で新鮮な情報をやり取りし学習に利用できることや、外国人講師による生きた英会話の授業等、現代の社会にかかせない技術や知識を得られるものだと思います。そして一番肝心なことです。将来地域或いは世界の中の一員として、また常識を持った大人として自立し活躍してほしいのと同時に、私達もしっかりサポートしていききたいものだと考えます。



小国高家庭科室で中学生が学習

部活動などでも合同練習

小国中学校二年生 五十嵐 咲 恵



「中高一貫教育」、この試みは、中学生そして高校生にとっても新鮮だと思います。これまで中学生にとって高校生は近寄りがたい存在でしたが、「中高一貫」のあいさつ運動や交流授業などの活動を通して高校生そして小国高を身近に感じる事ができ良かったです。そこで私が小国高に入学してから

中高合同によるボランティア活動も

小国中学校一年生 長 浜 彩 香



今年度の中高一貫教育では、中高合同集会、ダニエルカール氏の講演会などがありました。その中の活動として、私たち一年生は高校へ行

って勉強をしました。一組は、国際でハル先生との授業を高校の先生方に見てもらいました。二組は、中学校の先生と高校の先

生の二人の先生で家庭科の授業をしました。高校の先生と中学の先生の二人の先生で授業をするのは初めてで、どんな授業になるかとても楽しみです。

動をしてもらいたいと思います。それに、中高合同でボランティア活動もたくさんしてほしいと思います。中高生がいっしょに地域や社会の役に立つことができれば、すばらしいと思います。



「夢をもて」

小国高等学校校長 河内 昭 佐



第十七代校長

の夢を実現させるためにはどうすればよいのか考え、また、それに向かっての努力が必要になります。

平成十年度に山形県教育委員会から「中高一貫教育」研究協力校の指定を受け、この平成十三年度から実践校としてスタートを切りました。この一貫教育及びその研究については、全国より注目を浴びています。

さて、本校の正面玄関の上に、在校生から募集した標語が国道から見えるように掲げられました。これは同窓会のご好意により実現したものです。【あふれる個性で夢つかめ】、今の本校にぴったりの標語です。誰もが将来の夢について考えたことがあるはずです。その夢が全て現実のものになるとはかぎりませんが、夢だけで終わりにしてしまっ

ては何にもなりません。そこで本校にも将来への夢があります。それは、「町民に愛され、誰もが学びたい小国高校」と言われるようになることです。中高一貫教育を機会に、小国高校は変わっていかねければなりません。それを実現するためには、小国高校の教職員も、学ぶ生徒も、また、関わりのある全ての人々が変わらなければなりません。それぞれの姿が「学校が変わる」ことにつながっていきます。「山椒は小粒でぴりりと辛い」という諺があります。小規模の学校でも【きらりと光る】ものを作り出し、地域住民へ存在感のある「明るく、さわやかな、勢いのある」学校の姿を示していこうと頑張っているこの頃です。

小国高校で学んで

小国高校三年生 石垣 千 明

私がこの小国高校に入学してからもう三年も経とうとしています。今考えてみると、小国高校で過ごした三年間はあっという間に過ぎたような気がします。

そして、小国高校でたくさんさんの事を学ぶことができました。

私は、中学校でもやってきたバレーボールを高校でも続けてきました。部活動では、普段の学校生活だけでは学べないことをいろいろな人から教えていただいたり、実際に自分が経験したりして学んできました。

バレーボールは、チームプレーなので、自分のことだけでなく周りのことも考えなければならぬという

ことで、相手を思いやる気持ちが必要です。部活動はただ技術を上達させるだけのものではなく、精神面を向上させてくれる大事な

ものだと思います。三年間活動してきて、楽しいことばかりではなくつらいこともありました。いろいろな人に支えられながら乗り越えたことで自分自身が成長したと思います。

クラスにおいては、団結力の深まりを様々な行事を重ねることに実感しました。最初はまとまりがなくバラバラだった気持ちも本番が近づくにつれ一つにまとまりました。



体育祭、学校祭、クラスマッチなど一人一人が精一杯の力を出し切って素晴らしいものを作り上げることができました。また、行事を終えた後の充実感や感動を味わうことができました。小国高校は少人数ですが、様々な行事に対する意欲や熱意はどの学校にも負けないと思います。

私は、そんな小国高校で学べたことを誇りに思っています。

これから社会に旅立つ私達にとってこの小国高校で学んだことは、少しずつ実になっていくと思います。

いつでも目標を持ち、後悔しないように一歩一歩前進していこうと思います。

小国高校で学べたことに感謝したいと思います。



恩師回想

四季感動の「おぐに」



鈴木強太先生

(昭和四十六～四十八年 英語)

トラックに生徒を詰め込んで『松風館』まで往復し、教室のカビ臭いせんべい布団で雑魚寝をしたものだ。また、日曜日の米沢遠征も、

片道二時間の蒸気機関車での長旅で、まるで修学旅行のようであった。

『におう山百合小国の夏』

つれづれなるままに想い出を

嘉規則子先生

(昭和四十七年～五十二年 家庭)

米沢はあんなにポカポカ陽気だったのにと、パンプスを履いてきたことを後悔しつつ、滑る足元を気にしながらやっとの思いで小国高校へ辿り着いた時の心細さ。しかし、出迎えて下さった先生方の温かさと生徒達の元気のよい挨拶に勇気づけられ、心強い思いがいたしました。

当時、「陸の孤島」とか

の感動の場面は、海浜学校である。卒業した教え子たちは、夜の白山島一周の『肝試し』が最も感動的であったと言う。蚊に刺されながら『幽霊』役をこなさねばならない独身教師としては随分と切なかった。素もぐりで捕獲したクロダイとサザエを食卓に飾り、校長から褒められたのがうれしかった。

『紅葉色なす小国の秋』

の感動の場面は、OGUN Iのマークを胸にしての全

国教職員ソフトボール選手権大会である。在職中に三年連続県代表になり、五番打者で捕手として東北大会に出場したのである。野球部から新調のユニフォームを借用しての出場であったが、入場行進でのスパイクの音は今も耳に残っている。

『飯豊おろしの小国の冬』

の感動の場面はスキー授業である。スキー授業の日は、生徒は早弁に精を出し、教室授業も上の空であった。薄暗く寒い体育館でのスキー

部の練習も驚きであった。天井から降ってくる生徒の姿はまさにムササビのようで、あの迫力は忘れ難い。

このような私の『おぐに』は、今も心に残る『青春の夢香るわがふるさと』である。青春時代を共に過ごした生徒達、支えていただいた同僚の先生方、お世話いただいた地域の方々にかたじけなく感謝の意をこめて述べ、中高一貫教育で躍進目覚ましい小国高校の益々のご発展をお祈り申しあげます。



が、自然の恵みを巧みに生かした生活の知恵や自然のありがたさ・尊さを知ることができたのも小国へ赴任したからこそだと思います。部活では、なぜかバスケット部担当。当初ルールも知らず、私ができることは部員が安全に楽しく技術向上できる環境を整えてやること。それなのに秋の置高連で最終列車に乗り損ね、急遽、保護者と連絡を取り合い、狭い米沢の我が家へ宿泊。ありったけの布団を出

して十数人が雑魚寝する羽目になったにもかかわらず、「これって楽しいのよね」と落ちこんでいる私に言う思いやり深い生徒達に、救われた気持ちになったのを思い出します。

初めて担任したクラスもリーダー力のある生徒達が多く、悩みながらも楽しく過ごすことができました。思い起こせば同僚に助けられ、すばらしい生徒達に恵まれた初任地でした。感謝します。

私が山形県の教員に採用され、初めて赴任した忘れもしない四月一日。早朝米沢から幾つものトンネルを抜け、小国町に近づくにつれ、何かあやしい雲行き。駅に降り立つと何と大吹雪!!

会員からのたより

遠くにありて思うこと ふるさとは「小国」

長野県佐久市 舟山 毅



生まれ故郷を離れる寂し

さと新しい生活への不安が

入り交じった複雑な気持ち

で小国を離れ、茫々三十有
余年を過ぎようとしている。
しかしながら、今もなお飯
豊の雄大な山並みや横川、
荒川の流れは変わりなく、
小国こそ我が誇りである。
信州が生んだ偉大な文豪
島崎藤村は、

学校林作業でマムシと御対面

埼玉県川越市 森下 美江子

(昭和四十二年度卒)



昨年九月、同窓の元幕内
神幸の店駒込でミニ同窓会。
偶然千代大海関に会え感激。
昔ヘタタイムスリッパ気持ち
は十代。ちゃんこの酒肴に
舌鼓、懐かしい四方山話に
花が咲き、二次会でカラオ
ケタイム楽しい一時を堪能。
学校林でマムシと御対面。
夏休み山で採集ソロバン石。
ボランティアで田植初体験。
体育館に締めきあった部活。
降り積もった思い出素敵

血につながる ふるさと
心につながる ふるさと
言葉につながるふるさと
と三行の詩にふるさとへの
想いを込めて詠んでいる。
私自信も年々馬齢を重ねて
きて、この詩に感銘してい
る。

私の思春譜である小国高
校時代は、教えを頂いた加
藤雄栄先生のご指導の下で、
すばらしい級友に恵まれて
の三年間であったと感謝の
気持ちで一杯である。

な出会い充実した時を心に
刻み見えないゴール&スター
トラインで卒業。大好きな
故郷小国を離れ幼児教育に
携わり子育てで教職を去っ
て人生半ば娘からドイツ・
スイスへ家族旅の素敵なプ
レゼント。飛行機嫌いの私、
画期的体験。何とかなる物。
絵本から抜け出た城や街。
ハイジの泉に黒い森、カウ
ベルの音色に花の群れ氷河
アイガー北壁マッターホル
ンを間近に自然が織りなす
美しさに感動。夏のユング
フラウで猛吹雪。顔にあた
る冷たさ痛さに「小国の冬

国有林野事業に奉職し、
公務員生活では転勤はつき
ものであるが、住居移転を
伴う転勤も九回を数え、そ
れぞれの任地で多数の人達
のお世話になり交流を深め、
仕事に惚れ、女房に惚れ、
任地に惚れの三惚主義で、
浅間山を頂く佐久市に住居
を構え、すっかり信州人にな
っている。

母校も多くの航跡を残し、
創設五十周年を起しているこ
とに大変嬉しく、喜ばしい

も山々越えてのスキー大会
会場づくりもこうだった」
と、思いだぶらせ懐かしさ
に心踊り娘に感謝／感謝。
金子みすずの詩が浮かぶ。
上の雪 さむかろな
つめた月がさしていて
下の雪 重かるな
何百人ものせていて
中の雪 さみしかろな
空も地面も見えないで
ものを浅く観ないで深く心
で観る大切さをアルプスの
大自然にもっと学び帰国。
更に機会に恵まれ英国一
周旅数々の説話と歴史に彩

限りである。近年の少子化
と共に生徒数も少なくなっ
てきていると聞いているが、
地域に密着した高校として
愛され、親しまれ、益々発
展されることを念じてやま
ない。

私自身も初心に返り、校
訓である「自立・忍耐・向
上」を胸に、自己研鑽に努
めていかなければと自戒し
ている。

られた中世の古城と絶賛に
値するセピア色の村々が静
かに息づき、穏やかな雰
気と詩情豊かな見所が点在。
念願のピーター・ラビットの
世界に触れ大満足。必見、
物の豊かさが先行し心の
豊かさが問われる昨今、学
ぶ心は人を思いやる心や謙
虚に教わる心に通じます。
母校も英国からマーク先
生・ハル先生を迎え英語教
育、中高一貫教育と発展さ
れ誇りに思います。母校の
教えあつての今の私達。年
会費納入に賛同協力しませ
んか？ほんの短い人生です
もの……。

「老いとは」

関川愛広苑主任支援相談員 新野直紀

(昭和六十三年度卒)

私は現在、関川愛広苑で支援相談員として勤めて五年になる。その中で感じていることを述べてみたいと思う。

介護保険という言葉がうねりとなって全土をおおっている。政治もビジネスも医療や福祉もそのもとで奔走している。老いは病気か、呆けは病気か、片麻痺は病気なのかという問いが全体に流れている。そんな中、施設で暮らしている高齢者の方は、普段なかなか地域や社会との関わりを持つことが少なく、どうしても閉じこもりがちになり、家族や友人達と離れた孤立感、社会的疎外感、新しい環境へのストレス等、日々耐えていると思う。

老いも若きも日常生活の中で、様々なつながりが少なくなくなってきている世の中で、老いても幸福に生きる

術として、個人の趣味、関心のあるものを取り入れていくことが、いかに大切なことであるか感じている。

例えば、高齢者は、畑があるから寝たきりにならないと思っっている。随分高齢になっても畑に行く。痴呆になっても畑に行く。寝たきりになっても畑に行けないのではなく、畑に行けなくなったから寝たきりになったり、痴呆になるのである。外に出る、畑に行くということには、人間関係も役割も労働も水分補給も日光もある。何と言っても生きる値打ちがある。

高齢者、老人を大事にする、介護するということはその方の生活習慣を大事にするということである。この、一生大切な部分でもあり困難な部分に、今後もあり組んでいきたいと思う。自分が老いた時を考えながら。



テニス部のあの姿にあこがれ

斎藤 千賀子

(昭和四十九年度卒)

昨年よりは少ないと言われる雪。雪国で育った私はいつもの年と変わらない様に感じます。

原稿依頼を受けて、忘れかけていた高校時代を思い出しました。担任は今野征一先生だったと思います。私達はよく、先生の口まねをした様な気がします。あの頃は独身だった先生。お元気でしようか。クラブ活動と言えば、テニス部のあの姿にあこがれ入部したような気がします。米野とペアを組んで、いつも一回戦敗退。練習は厳しかったけど、あの時の汗は最高の汗だったと思います。(今の体型を見て子供達は信じられないと言う。)地元に住てもなかなか同級生とは会う機会も少ないのですが、同級生の中で忘れてはならない人がいます。私は、この人の地元後援会の会員にもなっています。「山遊亭金太郎」こと佐藤敏弘君。

身近にちよつと有名な人がいると思うと、何となくうれしい気分になります。頑張っ下さい。卒業して27年が経つんですね。四十の半ばになり、白髪もちらほら目立つ様になりました。さて、いよいよ今年度から中高一貫教育制度がスタートします。新しい制度の取り組みがより多くの人に広がり、歴史のある我母校が益々栄える事を願っております。

現在私は三人の子供の親として子育てに追われる毎日です。今年は、小学生の息子と飯豊登山が予定されています。「体力」それが一番心配ですが、何事も「挑戦」頑張ってみようと思います。余裕が出来、友達同士で旅行や温泉に行ける日が来る事を願いつつ、まずは、子育てに頑張ります。

春の訪れはもうそこまで来いています。

皆さん、お元気で……。

平成12年度 同窓会会計決算書

収入の部

(単位:円)

科 目	予算現額	収入済額	増 減	摘 要
会 費	1,500,000	668,500	△831,500	664名分
入 会 金	300,000	300,000	0	@5,000×60名
繰 越 金	166,124	166,124	0	前年度繰越金
雑 収 入	876	204	△672	預金利子等
合 計	1,967,000	1,134,828	△832,172	

支出の部

(単位:円)

科 目	予算現額	支出済額	残 高	摘 要
需 用 費	40,000	31,042	△8,958	用紙・卒業アルバム等
会 議 費	263,000	262,801	△199	各種役員会諸経費等
通 信 費	250,000	210,280	△39,720	ハガキ・切手・振込手数料
印 刷 費	237,000	207,070	△29,930	会報・学校案内チラシ・その他
使用料賃借料	10,000	0	△10,000	
事務室維持費	10,000	0	△10,000	同窓会事務室維持諸経費
慶 弔 費	50,000	0	△50,000	弔電
教育助成金	100,000	35,900	△64,100	卒業記念品・講演・垂幕等
支部助成	100,000	84,000	△16,000	町内地区11支部
特別事業基金	800,000	0	△800,000	
事 務 費	50,000	50,000	0	事務局
予 備 費	57,000	15,000	△42,000	
合 計	1,967,000	896,093	△1,070,907	

平成13年度 同窓会会計予算書

収入の部

(単位:円)

科 目	本年度予算額	摘 要
会 費	1,500,000	年会費 @1,000円×1,500名
入 会 金	210,000	卒業生入会金 @5,000円×42名
繰 越 金	238,735	前年度繰越金
雑 収 入	265	預金利子等
合 計	1,949,000	

支出の部

(単位:円)

科 目	本年度予算額	摘 要
需 用 費	40,000	用紙・卒業アルバム等
会 議 費	270,000	各種役員会諸経費
通 信 費	250,000	ハガキ・切手・電話代等
印 刷 費	250,000	会報・その他
使用料賃借料	10,000	
事務室維持費	10,000	同窓会事務室維持諸経費
慶 弔 費	10,000	弔電・餞別等
教育助成金	100,000	卒業記念品・講演謝礼等
支部助成	100,000	町内地区11支部
特別事業基金	800,000	
事 務 費	50,000	事務局
予 備 費	59,000	
合 計	1,949,000	

平成14年度総会の案内

平成14年度総会を下記日程にて行いますので、皆様お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

- 。期 日 平成14年5月24日(金)
- 。時 間 午後6時00分より
- 。会 場 みよしや食堂
TEL (0238) 62-2224
- 。申し込み 小国高校内事務局
TEL (0238) 62-2054
FAX (0238) 62-2055

。平成十三年度総会が昨年五月二十五日(金)午後六時より、喜久よし亭に於いて行われ、協議については、満場一致で承認されました。懇親会も盛大に楽しい一時でした。

。長年副会長として御活躍されました佐藤廣雄氏(57歳)には、病氣療養中のところ、五月に逝去されました。

事務局だより

後任副会長には、監事の田中達雄氏が、監事には、小椋民子氏がそれぞれ任命されました。



平成十三年度会費納入者

昨年より大口納入者を受け付ける事になり、今年度七名の大口納入者がありました。
今後とも母校発展のため、よろしくお願い申し上げます。

平成十三年度会費納入者

昨年より大口納入者を受け付ける事になり、今年度七名の大口納入者がありました。

今後とも母校発展のため、よろしくお願い申し上げます。

高橋金	後小加	井栗安	滝官須	白阪小	木飯安	昭和25年度卒業	高野	昭和24年度卒業	田渡野	佐羽二	須仁三	三十口	高橋	額納入者
橋部	藤林藤	田上原	部口原	貝田井	池村沢	達	野藤	哲夫	中部沢	藤田	貝科	三光	三万	高橋
辰六正	哲一貞	末六健	末六健	敏左	不利賢	三三	野藤	哲夫	達光	静み	二千	竜光	三万	高橋
巳郎男	男男雄	吉博	蔵一昭	吉宏	仁行	門夫	雄市	博夫	達光	静み	二千	竜光	三万	高橋
巳郎男	男男雄	吉博	蔵一昭	吉宏	仁行	門夫	雄市	博夫	達光	静み	二千	竜光	三万	高橋
古大笹	小小加	昭藤	飯三角	永伊渡	勝重松	前塚高	昭和27年度卒業	昭和24年度卒業	宮渡八	小佐吉	本柴塚	関野矢	昭和26年度卒業	保吉
泉沼	出池	治郎	沢井田	井藤	辺山川	井田原	橋野	哲夫	崎部木	池藤	田間野	矢あ	昭和26年度卒業	保吉
初玲啓	清右	工	イヘ	典主	忠次	鉄子	千恵	参道	ト昭	昭確	文三	エ	あ隆	保吉
子子子	子子子	子子子	子子子	子子子	子子子	子子子	子子子	子子子	子子子	子子子	子子子	子子子	子子子	保吉
柴佐佐	小富松	舟塚	鹿高	昭和30年度卒業	原保木	伊河福	今日飯	渡渡毛	佐今加	川伊	昭和29年度卒業	松吉仁	島遠遠	佐藤
田藤藤	関塚原	山野島	井	尾科村	藤内田	下沢辺	辺利藤	藤上藤	藤上藤	藤上藤	昭和29年度卒業	田田科	貫藤藤	藤藤
重静良	文寅隆	良吉	敏か	二正	雄信	廉英	敏修	新辰十	洋太	洋太	昭和29年度卒業	雪重吉	久和芳	秀秀
博哲雄	雄雄雄	雄雄雄	雄雄雄	雄雄雄	雄雄雄	雄雄雄	雄雄雄	雄雄雄	雄雄雄	雄雄雄	昭和29年度卒業	雄雄雄	雄雄雄	雄雄雄
大井伊	昭藤	森丹佐	後伊渡	船佐梅	鹿河須	渡渡安	小渡今	伊藤	昭和31年度卒業	米斎横	今伊佐	斎桜渡	渡渡渡	須
沢上藤	幸真博	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀	義三郎
幸真博	一典雄	一典雄	ハ利祐	輝友	重栄ミ	よシタ	朝勝	豊厚志	昭和31年度卒業	岩文徳	謙	マス富	松健儀</	

月(平成十三年二月十八日現在)	渡山田竹佐川遠保舟舟手齋木加柿遠安安 部崎辺田藤上藤科山山塚藤村藤崎藤部部 (第五十一回)	平成 12年度卒業 (第五十一回)	三井渡田齋伊 猪上部村藤 雄 淳未さ敬 亭子沙太	平成 11年度卒業 (第五十一回)	齋塚竹 藤原田 望千友 美奈紀	平成 10年度卒業 (第五十回)	藤水駒山 田井沢口 香香友正 織織美田
-----------------	---	-------------------------	-----------------------------------	-------------------------	--------------------------	------------------------	------------------------------

平成13年度 第3学年進路状況

平成14年2月15日現在 山形県立小国高等学校進路指導課

内 訳			男 子	女 子	合 計
進 学	大 学	4 年 制 大 学	3	2	5
		短 期 大 学	3	3	6
	専 門 学 校 等		3	5	8
就 職	県 内	地 元 (西 置 賜)	9	9	18
		地 元 外	0	0	0
	県 外		2	2	4
	未 定		0	1	1
合 計			20	22	42

進路先一覧

4年制大学 八戸工業大学、東北公益文化大学(2)、中央学院大学、立正大学
 短期大学 秋田桂城短大、羽陽学園短大(2)、山形短大(3)
 専門学校等 仙台医療福祉専門、新潟調理師専門(2)、新潟製菓調理師専門、
 ジャパンビューティーアカデミー、東放学園音響専門、仙台ヘアメイク専門、ポリテクカレッジ新潟
 県内就職 大幸TEC(2)、安部工業(2)、小国自動車整備工場、(有)小国
 測量設計事務所、(有)小国町地域産業公社、(有)オレンジ、(有)金十
 商店(4)、(有)小嶋石油店、(有)三栄自動車工業、東芝セラミックス
 (有)小国製造所、(有)豊嶋石英硝子、(有)花のひらの、ハイコー(有)、
 広重電子(有)
 県外就職 (有)サンミッシェル南青山、(有)すずきケ池、(有)いしがたエネルギー、
 (有)平塚工務店



魅力ある小国高校をめざして

生徒会長 菊地拓也

僕は小国高校に入學してから二年間、野球部の活動に打ち込んできました。野球一筋だった僕が、生徒会長に立候補したきっかけは学校祭の仮装大会です。今まで学校行事に参加しても、裏方でどんな苦労をしているのか考えもせず、「つまらない」と思った事もありました。そんな中、

れしさも違うなと感じました。何もせずに「どうせつまらない」と言っていたら、こんな気持ちにはならなかったと思います。この経験をした後に生徒会の役員改選があり、僕にも何かできるんじゃないかと立候補しました。活動を始めてみると、とても大変で部活動との両立に苦労しています。一月末に県内の生徒会役員が一堂に集まるリーダー研修会に参加しました。各

学校の様々な活動について話し合い、小国高校もやるぞという気持ちになりました。ただ、僕一人の力で学校を変えるのは難しいと思うので、どんな意見を出してもらえる雰囲気を作って行きたいです。僕と同じ様な体験を皆にもして欲しいと思います。今年の生徒会では先輩方から受け継いだあいさつ運動・ボランティア活動に一層力を入れて行きたいと考えています。今までは、挨拶をする人もいる、しない人もいる状況でした。自分から挨拶をしても返してもくれないのは悲しいし、失礼な事だと思っています。挨拶をすることによって、学校が明るくなり、よりよい学校になると思います。また、週五日制で学習内容や行事が変わって行きますが、自身の濃い充実した学校生活になるよう全校生が協力して、小国高校を変えていきたいと考えています。

編集後記

後記を書く段になって、インターネットから「小国高校」を検索してみたら関連の項目毎にいくつかでてきた。

熊本県の小国高校も十四年度から中高一貫教育を始めるというのもあった。当校に赴任したことのあるM先生の数学の授業らしいのもあった。

同窓生に関係するものもHさん、Mさん、Kさんなどが登場しており、結構楽しめる。

暇があったらぜひ一度アクセスしてみてください。残念ながら、「小国高校」のHPは現在工事中でした。研介先生がんばって完了を急いでください。

今号の発行のための労も、いつものとおり駒さんに負う所が多かった。(栗)

*編集委員

駒沢 堅一 神保たえ子
 栗田 金男